

県政調査計画書

平成30年7月6日

県議会議長 桐生 秀昭 殿

会 派 名 公明党神奈川県議会議員団

団 長 名 渡 辺 ひ と し

(署名又は記名押印)

県政調査を次のとおり計画しましたので、よろしくお取り計らいください。

1 調査議員	(調査団長) 渡 辺 ひ と し (団 員) 鈴 木 ひ で し 西 村 く に こ
2 調査目的	精神疾患の患者等を対象とした福島県立矢吹病院によるアウトリーチの取組、東日本大震災被災者の心のケアを行う「ふくしま心のケアセンター」による相談活動等の取組、また、石巻市における震災復興の状況及び課題を調査するとともに、新たに開所した石巻市防災センターを現地視察し、さらに、「仙台フィンランド健康福祉センター」による健康福祉産業等支援の取組を調査することにより、県政の参考とする。
3 調査期間	平成30年8月8日～平成30年8月10日
4 調査地	福島県、宮城県
5 調査項目	(1) 福島県立矢吹病院 福島県立矢吹病院では、平成27年4月から、未治療、治療中断、ひきこもり、長期入院者の退院後、重度の精神障がい者の方を対象として、幅広く、質の高い支援を提供するアウトリーチ（訪問型支援）を行っている。 福島県立矢吹病院におけるアウトリーチの取組内容や課題を調査することにより、本県における精神疾患患者・精神障がい者支援施策の参考とする。 (2) ふくしま心のケアセンター ふくしま心のケアセンターは、国の復興予算による事業として、東日本大震災による避難生活等でストレスを抱える福島県民の心の復興を目指し、個別訪問等の相談活動や人材育成などを行っている。 ふくしま心のケアセンターの取組内容や課題を調査することにより、本県における被災者支援施策の参考とする。



	<p>(3) 石巻市役所・石巻市防災センター  石巻市は、東日本大震災による「最大の被災都市」であるが、同市の震災復興基本計画に基づく復興は、平成30年度から「発展期」の段階に差しかかっている。また、新たな防災・復興拠点として建設された防災センターが平成30年5月末に開所された。  石巻市における震災復興の状況とその課題を調査するとともに、石巻市防災センターの現地視察を行うことにより、本県における復旧・復興対策及び防災施策の参考とする。</p> <p>(4) 仙台フィンランド健康福祉センター事業創成国際館  仙台市とフィンランド共和国の産業振興協定に基づき設立された仙台フィンランド健康福祉センター事業創成国際館では、仙台・宮城の健康福祉産業の発展を目指すとともに、仙台市産業の国際化を推進するための拠点として、生活の質の向上に資する様々な分野において、新製品・サービスの開発や海外展開のサポートを行っている。  仙台フィンランド健康福祉センター事業創成国際館の取組内容や課題を調査することにより、本県のヘルスケア・ニューフロンティア施策の参考とする。</p>
<p>6 経費の概算額</p>	<p>一人当たりの議員経費 …………… 68,860円</p> <p>内訳 交通費 35,500円</p> <p>宿泊費 33,000円</p> <p>日 当 360円</p>

\* 日程表を添付する。

## 県政調査日程表

日	月日(曜)	調査地	現地時間	交通機関	調査箇所及び調査内容
1	8月8日 (水)		午前	公共交通機関等	移動(東北新幹線:東京~新白河 他)
		福島県	午後	公共交通機関等	●視察1「福島県立矢吹病院」 ・アウトリーチの取組について  ＜福島市内泊＞
2	8月9日 (木)	福島県	午前	公共交通機関等	●視察2「ふくしま心のケアセンター」 ・心のケアセンターの取組について
		宮城県	午後	公共交通機関等	●視察3「石巻市役所」 「石巻市防災センター」 ・震災復興の状況とその課題について ・石巻市防災センター現地視察  ＜仙台市内泊＞
3	8月10日 (金)	宮城県	午前	公共交通機関等	●視察4「仙台フィンランド健康福祉センター」 ・仙台フィンランド健康福祉センター事業創成国際館の取組について
			午後	公共交通機関等	移動(東北新幹線:仙台~東京 他)

## 県政調査計画審査結果

県政調査計画について審査したところ、結果は次のとおりでした。

調査実施議員名	(調査団長) 渡 辺 ひ と し (団 員) 鈴 木 ひ で し 西 村 く に こ
---------	--

## 1 要領 2 (1) の基準への適否

区 分	調査の基準	計画の内容	適否
① 調査経費	議員 1 人当たり 100 万円以内	議員 1 人当たりの経費は 68,860 円であり、基準を満たしている。	適
② 調査箇所	1 日につき午前及び午後それぞれ 1 箇所以上調査実施 移動日は 1 箇所以上調査実施	移動日は 1 箇所以上、その他の日は午前及び午後それぞれ 1 箇所ずつ調査を実施する行程となっている。	適

## 2 調査計画に対する審査所見

区 分	所 見
① 調査の実施が県政課題解決の一助となるか。	<p>(1) 福島県立矢吹病院 先頃、精神疾患等がある子を監禁したとして高齢の親が逮捕される痛ましい事件が相次いで報道されたところであるが、その背景の一つには、精神疾患等の当事者や家族が問題を抱え込んでしまい、医療と繋がれずに孤立している状況があると指摘されている。 定量的なデータこそないものの、こうした課題に直面している当事者や家族は、本県においても少なくないものと推測される。 福島県立矢吹病院では、アウトリーチチームを多職種で編成し、地域の関係機関とも連携しながら支援を行っているところであり、県立病院でもある同病院の取組内容等を調査することは、本県における精神疾患患者・精神障がい者支援施策の推進に資する。</p> <p>(2) ふくしま心のケアセンター 東日本大震災から 7 年を経過し、避難指示の解除により帰還が進むなど、住民を取り巻く環境が急激に変化する中、心の不調を抱える人は今も多く、最近ではアルコール依存などの問題が増加している。 本県においては、大規模地震発生 of 切迫性が指摘されているところであり、災害発生後は、インフラ等ハードの復旧・復興対策はもちろんのこと、心のケアも長期にわたる重要な課題になると考えられる。</p>

区 分	所 見
	<p>ふくしま心のケアセンターは、福島県内各所にセンターや出張所を設け、心のケアに関する支援を継続的に行っており、同センターの取組内容等を調査することは、本県における被災者支援施策の推進に資する。</p> <p>(3) 石巻市役所・石巻市防災センター  東日本大震災による津波等により、3千人を超える方が犠牲となり、2万棟を超える建物が全壊するなど甚大な被害を受けた石巻市は、平成23年12月に策定した震災復興基本計画に基づき、災害に強いまちづくり、住まいの再建、コミュニティ復興など、多方面にわたる復興に取り組んでおり、計画で「新たな魅力と活力ある地域として生まれ変わり、発展していく期間」と位置付けた「発展期」を迎えている。  また、石巻市防災センターは、ICTを活用した災害時の司令塔であると同時に、平時には、市民の防災力向上の場として活用される施設として、東日本大震災の教訓を踏まえ、新たに整備されたものである。  石巻市における震災復興や石巻市防災センターの状況等を調査することは、大規模地震発生の切迫性が指摘されている本県における復旧・復興対策及び防災施策の推進に資する。</p> <p>(4) 仙台フィンランド健康福祉センター事業創成国際館  公益財団法人仙台市産業振興事業団が設置運営する仙台フィンランド健康福祉センター事業創成国際館では、WELL-BEINGの分野において、ビジネスマッチング支援、研究開発支援、地域企業支援、海外展開支援などに様々な実績を挙げている。  さらに、平成30年度からは介護（Care）とIT（Technology）の融合（CareTech：ケアテック）をテーマとして、ICT事業者の介護分野への新事業展開を推進することとしており、こうした方向性は、政府が進める「Society5.0」と軌を一にするものである。  こうした仙台フィンランド健康福祉センター事業創成国際館の取組内容等を調査することは、本県におけるヘルスケア・ニューフロンティア施策の推進に資する。</p>
② 調査の実施時期が時宜を得たものか。	<p>今回の調査対象項目は、どれも本県の重要施策と関連したものであり、本調査により先進的な取組や事例を調査することは時宜を得たものである。</p>
③ 現地に赴かなければ調査目的が達成できないものか。	<p>各調査項目について、今後の本県における施策の取組に活かしていくためには、現地に赴き、具体、詳細に調査及び聴取しなければ調査目的が達成できないものである。</p>
④ 調査箇所、行程、経費等は妥当なものか。	<p>調査箇所、行程、経費等は、県政調査実施要領の基準を満たし、妥当なものである。</p>